

梨の里小学校いじめ防止基本方針

1 いじめの防止についての基本的な考え方

いじめは、いじめられた児童の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為である。また、どの児童も被害者にも加害者にもなりうる。これらの基本的な考えを基に教職員が日頃からささいな兆候を見逃さないように努めるとともに、学校全体で組織的に対応していく。

何より学校は、児童が教職員や周囲の友人との信頼関係の中で、安心・安全に生活できる場でなくてはならない。児童一人一人が大切にされているという実感をもつとともに、互いに認め合える人間関係をつくり、集団の一員としての自覚と自信を身に付けることができる学校づくりに取り組んでいく。児童の「居場所づくり」、児童同士の「絆づくり」を進めていく中で、児童が自己肯定感や自己有用感を育み、仲間と共に人間的に成長できる魅力ある学校づくりを進める。

2 いじめ防止対策組織

梨の里小学校では「いじめ不登校対策委員会」を設置し、いじめのささいな兆候や懸念、児童からの訴えを、特定の教員が抱え込むことのないよう、組織として対応する。

校長、教頭、教務主任、校務主任、学年主任、生徒指導主任、養護教諭等で構成し、必要に応じて、スクールカウンセラー等を加える。

(1) 「いじめ不登校対策委員会」の役割

ア 「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組の実施と進捗状況の確認

- ・学校評価アンケートや児童観察等からいじめ防止対策の検証を行い、改善策を検討していく。

イ 教職員への共通理解と意識啓発

- ・年度初めの職員会議で「学校いじめ防止基本方針」を周知し、教職員の共通理解を図る。
- ・いじめアンケートや教育相談の結果の集約、分析、対策の検討を行い、実効あるいじめ防止対策に努める。

ウ 児童や保護者、地域に対する情報発信と意識啓発

- ・学校だよりやホームページ等を通して、随時いじめ防止の取組状況や学校評価結果等を発信する。

エ いじめに対する措置（いじめ事案への対応）

- ・いじめがあった、あるいはいじめの疑いがあるとの情報があった場合は、正確な事実の把握に努め、問題の解消にむけた指導・支援体制を組織する。
- ・事案についての正確な情報を全職員が周知し、指導方針、支援体制についての共通理解を図る。
- ・事案への対応については、適切なメンバー構成を検討し、迅速かつ効果的に対応する。また、必要に応じて、外部の専門家、関係機関と連携して対応する。
- ・問題が解消したと判断した場合も、その後の児童の様子を見守り、継続的な指導・支援を行う。

3 いじめの防止等に関する具体的な取組

(1) いじめの未然防止の取組

- ア 児童同士の関わりを大切にし、互いに認め合い、共に成長していく学級づくりを進める。
- イ 児童の活動や努力を認め、自己肯定感を育む授業づくりに努める。
- ウ 教育活動全体を通して、道徳教育・人権教育の充実を図るとともに、体験活動を推進し、命の大切さ、相手を思いやる心の醸成を図る。
- エ 情報モラル教育を推進し、児童がネットの正しい利用とマナーについての理解を深め、ネットいじめの加害者、被害者とならないよう継続的に指導する。

(2) いじめの早期発見の取組

- ア 児童観察、日記、連絡帳などから児童理解を進めるとともに、養護教諭との連絡を密にし、普段から児童の変化を見逃さないように努める
- イ いじめアンケートや教育相談を定期的に実施（年3回）し、児童の小さなサインを受け止められるようにする。
- ウ 教師と児童との温かい人間関係づくりや、保護者との信頼関係づくりに努め、いじめ等について相談しやすい環境を整える。
- エ いじめ相談電話等、外部の相談機関を紹介し、児童が相談しやすい環境を整える。

(3) いじめに対する措置

- ア いじめの発見・通報を受けたら、学年主任・生徒指導主任を中心にして迅速に対応する。重大な事案は「いじめ不登校対策委員会」を中心に組織的に対応する。
- イ 被害児童を守り通すという姿勢で対応する。
- ウ 加害児童には教育的配慮のもと、毅然とした姿勢で指導や支援を行う。
- エ 教職員の共通理解、保護者の協力、スクールカウンセラーやソーシャルワーカー等の専門家や、警察署、児童相談所等の関係機関との連携のもとで取り組む。
- オ いじめが起きた集団へのはたらきかけを行い、いじめを見過ごさない、生み出さない集団づくりを行う。
- カ ネット上のいじめへの対応については、必要に応じて警察署や法務局等とも連携して行う。

4 重大事態への対応

- (1) 重大事態が生じた場合は、速やかに教育委員会に報告をし、「重大事態対応フロー図」に基づいて対応する。
- (2) 学校が事実に関する調査を実施する場合は、「いじめ不登校対策委員会」を開催し、事案に応じて適切な専門家を加えるなどして対応する。
- (3) 調査結果については、被害児童、保護者に対して適切に情報を提供する。

5 学校の取組に対する検証・見直し

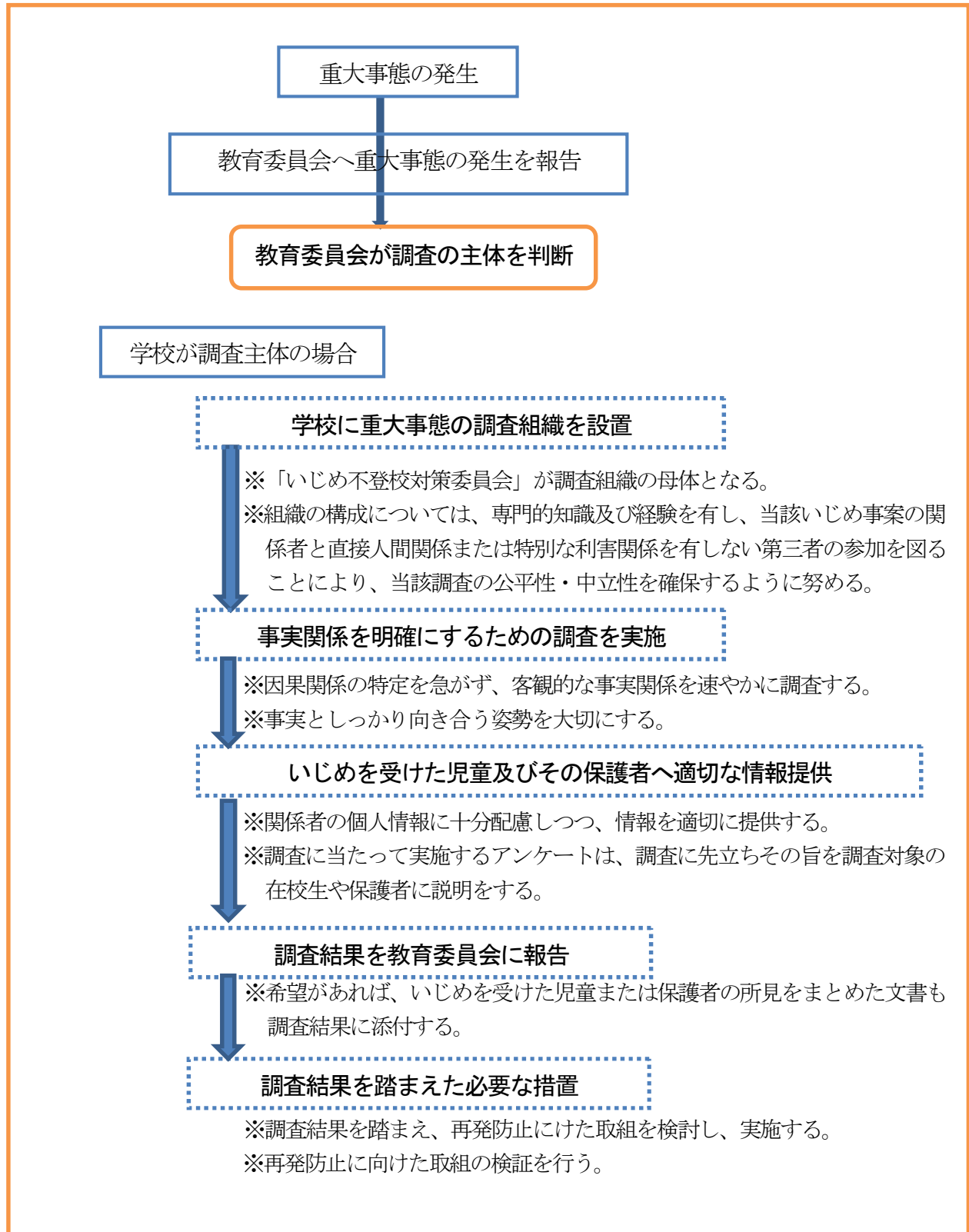
- (1) 学校いじめ防止基本方針をはじめとするいじめ防止の取組については、PDCAサイクルで見直し、実効性のある取組となるよう努める。
- (2) いじめに関する項目を盛り込んだ教職員による取組評価及び保護者への学校評価アンケートを年に3回実施（7月、12月、2月）し、いじめ不登校対策委員会がいじめに関する取組の評価・改善を行う。

6 その他

- (1) いじめ防止に関する事例研修を年2回計画し、児童理解やいじめ対応に関する教職員の資質向上に努める。

- (2) 「学校いじめ基本方針」は4月に保護者へ配布するとともに、ホームページにも掲載する。
- (3) 長期休業中の事前・事後指導を行い、休業中のいじめ防止に取り組む。

【重大事態の対応フロー図】



<参考資料 取組の年間計画例>

	「いじめ・不登校対策委員会」	未然防止の取組	早期発見の取組	保護者・地域との連携	
4月	P ↓ D ↓ C ↓ A ↓ P ↓ D ↓ C ↓ A ↓ P ↑	○「学校いじめ基本方針」の内容の確認	○相談室やSCの児童、保護者への周知 ○学級開き、学年開き ○保健指導（心と体の成長）	○いじめ相談窓口の児童、保護者への周知 ○身体測定	○PTA総会、個別懇談会での「学校いじめ基本方針」の説明
5月		○「児童理解と学級づくり」	○人権標語募集		
6月		○事例研修①	○情報モラル指導 ○ペア活動 ○ふれあいネット	○「いじめアンケート」（～7月） ○教育相談週間	○道徳の授業 ○青少年健全育成会
7月		○いじめアンケート結果検証 ○全職員による「取り組み評価アンケート」の実施・検証	○すこやか会議 ○自然教室（5年）		○個人懇談会 ○保護者への学校評価アンケート
8月		○中間評価→検証			○校外指導
9月				○身体測定	○授業参観・夏休み作品展
10月		○事例研修②	○はなまるあいさつ運動		○青少年健全育成会
11月		○全教職員による「取組評価アンケート」の実施→検証		○「いじめアンケート」（～12月） ○教育相談週間	
12月			○人権週間（講話） ○赤い羽根募金活動 ○ふれあいネット（異学年交流）		○個人懇談会 ○保護者への学校評価アンケート
1月		○いじめアンケート結果	○保健指導（命の大切さ）	○身体測定 ○教育相談週間	○授業参観・梨っ子作品展
2月		○自己評価	○1/2成人式（4年）		
3月		○学校関係者評価の結果を検証し、「基本方針」の見直し	○卒業生を送る会		○ありがとうの会
通年	○校内のいじめに関する情報の収集 ○対応策の検討	集会における校長講話 道徳教育、体験活動の充実 分かる授業の充実 児童観察	○健康観察の実施 ○SCによる相談 ○日記指導 ○児童観察	○安全安心ボランティアによる見守り活動	

※いじめが発生した場合の対応については、関係する職員で共通理解を図りながら、対応していく。